



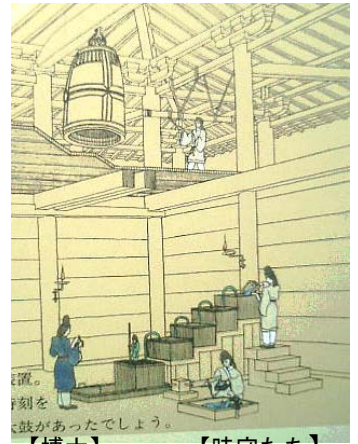
時の記念日



西暦 671 年、天智天皇(38 代)が「漏刻(水時計)」を設置して、日本で初めて人々に時刻を知らせたといえます。『日本書紀』によると、4 月 25 日のことで、今の暦では 6 月 10 日にあたることから、これを記念して、6 月 10 日を「時の記念日」としました。(大正 9 年制定)

当時、二人の漏刻博士が置かれ、20 人の時守(ときもり)を率いて漏刻を管理し、鐘をついて時を知らせたといえます。(右図) 今の時計という言葉から想像するものとは違った大規模な設備ですね。

彼らの役目は大変重要なので、居眠りとか遅刻した場合の罰は、罷免や出勤停止など厳しいものであったようです。



【博士】

【時守たち】

「時の記念日」は私たちに、時間を大切に生きていますか?と、改めて問いかけているような気がします。

江戸時代の有名な詩人頼山陽(らいさんよう:1781~1832)が 13 歳の正月に詠んで、江戸にいる父親に送ったといわれる詩を紹介します。

- | | | |
|---|--------------|------------------|
| ① | 十有三春秋 | じゅうゆうさんしゅんじゅう |
| ② | 逝者已如水 | ゆくものはすでにみずのごとし |
| ③ | 天地無始終 | てんちしじゅうなく |
| ④ | 人生有生死 | じんせいせいしあり |
| ⑤ | 安得類古人 | いずくんぞこじんにるいして |
| ⑥ | 列千載青史 | せんざいせいしにれっするをえんや |

- ①もう自分は 13 歳になった。②時は水のように流れ去っていく。
 ③この宇宙には始めも終わりもないが、④人の一生は実に短いものだ。
 ⑤どうしたら昔の人たちと肩を並べて、⑥歴史に名を残す人間になれるだろうか。

(これを受け取った父親の心境は、どんなだったでしょうね。)



今月のワン・ポイント

我ら、何のために学ぶや。「それ学は通のために非ざるなり。窮して困しまず、憂ひて意衰えざるがためなり。禍福終始を知って惑わざるがためなり。」荀子(孟子と同時代の中国の思想家)

[学ぶとは、通(生活の手段=就職や出世など)のためではない。困窮しても苦しまず、不安におののくことがあっても、意気消沈しないため。禍福(災いと幸福)のよって来るところを知って、(人生の複雑な問題に直面しても)心を乱さないためである。]

(学びは、自分の支えになってこそ意味がある。)